

府中市観光振興プラン検討協議会 第4回 議事録

1 日時：令和3年5月19日（水） 10時00分～12時00分

2 場所：市役所北庁舎3階第5・6会議室

3 出席者：＜順不同敬称略＞

公募市民	石川伊智郎	
商工関係団体の推薦する者	井上博正	むさし府中商工会議所
府中観光協会の推薦する者	宇田雅志	府中観光協会
学識経験を有する者	大下茂	帝京大学教授
府中観光協会の推薦する者	大津貞夫	府中観光協会
学識経験を有する者	小野一之	郷土の森博物館前館長
民間事業者の推薦する者	井上光男	サントリービール株式会社
商工関係団体の推薦する者	筒井孝敏	府中市商店街連合会
民間事業者の推薦する者	都留圭一郎	日本中央競馬会 東京競馬場
学識経験を有する者	得居泰司	ジェイコム東京 J:COM アナウンサー
民間事業者の推薦する者	長尾諭	東日本旅客鉄道株式会社
民間事業者の推薦する者	林健太郎	京王電鉄株式会社
商工関係団体の推薦する者	廣瀬健	まちづくり府中
公募市民	深澤廣太郎	
公募市民	横山年子	

4 次第

(1) 開会

(2) 確認事項

府中市観光振興プラン検討協議会 第3回 議事録について

(3) 報告事項

現府中市観光振興プラン（平成30年度一部改定）に基づいた今までの取組の共有

(4) 審議事項

府中市観光振興（令和4年度～令和11年度）1章～3章について

基本方針・施策の方向性について

(5) その他

5 議事の内容

(1) 開会

開会挨拶(大津会長)

【大津会長】

本日は大変お忙しい中、またコロナ禍にも関わらず検討協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今回の会議より新しい年度に入りまして、本検討協議会も半分が過ぎたところであります。皆さんから貴重なご意見をいただき、また協力もいただきまして、ここまで順調に推移をしてまいりました。残された時間はあと1年でありますので、さらに皆さんからご意見をいただきまして、府中市観光振興プランを作成していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

委員出席状況(事務局)

【事務局】

本日の委員の出席状況ですが、15名様出席していただいております。本協議会は有効に成立していますことをご報告いたします。また、今年度最初の検討協議会となりますので、事務局の体制に変更がありましたので、ご報告いたします。4月1日付で生活環境部長の石川が異動となり、生活環境部次長の山下が部長に昇任し、着任しております。本日は公務のため欠席させていただいておりますが、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

【大津会長】

本日の協議会は有効に成立していると報告がございました。また、事務局の職員体制の変更について報告がありました。

続いて、事務局から傍聴希望を報告してください。

傍聴希望の状況について(事務局)

【事務局】

昨日までに、傍聴を希望された方はおりませんでしたので、本日の傍聴希望者はおりません。

配布資料の確認(事務局)

・配付資料

次第

第4回府中市観光振興プラン検討協議会 進行資料

資料 4-1 府中市観光振興プラン検討協議会 第3回 議事録

資料 4-2 府中市観光振興プラン(平成30年度一部改定)に基づいた今までの取組内容について

資料 4-3 府中市観光振興プラン(令和4年度~令和11年度)概要

資料 4-4 府中市観光振興プラン 1章~3章(案)

資料 4-5 現行プラン基本方針と施策の方向性/第2次プランの視点

(2) 確認事項

府中市観光振興プラン検討協議会 第3回 議事録について

※別紙資料 4-1 参照

【大津会長】

府中市観光振興プラン検討協議会第3回議事録について、事務局から委員の皆様へ事前送付されております。本日資料 4-1 としてお手元にございますが、各委員の皆様へ内容を確認いただいた中で、修正すべき点や何かお気づきの点がございましたら、ご意見をお伺いしたいと思います。

【事務局】

事務局に事前にご指摘いただいている箇所をご報告いたします。資料の5ページ、大下副会長のご発言の1行目「都市計画やマスタープラン等」は「都市計画マスタープラン等」に変更いたします。

※委員からの意見なし

資料の通り、第3回議事録の内容を確定したいと思いますので、事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたいと思います。

(3) 報告事項

府中市観光振興プラン（平成30年度一部改定）に基づいた今までの取組内容について

※別紙資料 4-2 参照

【大津会長】

只今、事務局から「府中市観光振興プラン（平成30年度一部改定）に基づいた今までの取組内容について」の報告がありました。委員の皆様、何かご質問等ございますでしょうか。

●質疑応答

【井上（博）委員】

今回のワクチン接種や給付金関係もそうですが、市の案内がスマホ対応が中心となっており、5ページ記載の国分寺市との連携もスマホ対応となっています。訪れた方にとってはスマホは非常に便利であります。府中に来たいと思っている方はPCで検索をしながら、スマホでも内容を確認する形だと思いますので、こういったものはできればPCとスマホで対応できるシステム構築をお願いできればと思います。

また、パブリックビューイングを行うことになっており、府中市、観光協会、まちづくり府中、商工会議所の連携となっていますが、一つのことを実施するのに、3つ4つも担当を分けなくてはいけないのかと思います。一本化すればもっと楽になり、コストも下がるのではないかと思います。縦割りにしていることがもったいないと思います。

そして、すべての項目に関わることですが、物を建てるのは良いのですが、府中本町駅では駐車場も駐輪場もないです。何もイベントができないのではないのかという状態です。また、再開発の際できたルシーニュの地下駐車場ですが、今2000円で1時間、5000円で2時間となっていますが、観光でまちを興そうとするのであれば、5000円や1万円で3時間、4時間、5時間等、ある程度無料タイムを設けることも市営ですので、検討したほうが良いと思います。

【事務局】

国分寺・府中の事業の関係につきましては、「ぶらり国・府」のアプリ展開のほか、開運などのテーマに沿った冊子なども発行しております。アプリにつきましては、WEB サイトでも見られるようにはしておりますが、その周知が足りていないようですので、対応したいと思います。また、冊子についても PDF で WEB サイトから見られるようにしておりますが、わかりにくい点があると思いますので、後日対応いたします。

その他の点につきましては、これから施策を検討する上で参考にさせていただきます。

【井上（光）委員】

企業では例えばエネルギー等を大量に消費する際に、バランスを見ます。例えばマテリアルバランスでインプットがこれだけあり、アウトプットはこういったように分かれていくなど、大きな消費のものは少なくしなければならないし、細いところも消費を絞っていくことなどを考えていきます。

今回は人流と思っておりまして、府中にいろんな方が入ってきて、出ていく、この流れが観光の部分でどういう形に寄与しているのか。各施策を行っていて、細かく対応しているのは理解できているが、それがどういう形につながっているのかわかりづらいので、府中のつかみどころが結果として見えづらい課題があると思います。

そういった今までの施策の反省点を踏まえ、今回検討する施策が人流を増やしていったら、回していき、観光につなげていくようなプランになればよいと思っています。

【大下副会長】

3つの視点より整理をさせていただきます。

1つ目ですが、「3」と評価されている「観光統計の改善とデータベースの充実」、「観光形態やニーズ等の質的データの把握」、「観光がもたらす効果の検証」の各項目ですが、今回はJTB総研により様々な角度から調査を行っており、費用もそれなりにかかっていると思います。そういったことは費用面でも毎年チェックすることはできず、「3」で評価をされていることと思います。これについては以前の協議会でもお話しましたが、定期的にチェックしていく必要はありますので、簡単にできる方法の提案をぜひお願いできればと思います。大きな調査はできなくとも、すでにあるビックデータを活用しながら、どう行っていくのか。先程井上（博）委員からもありましたが、スマホデータを活用すれば、どのような人流が動いているかわかるので、それを観光の視点からどのように評価ができるのか等、専門的な分野に長けていなくてもチェックができ、データを取れるような仕組みを今回のプランのどこかに入れて、実際に進めることが必要だと思います。「3」の部分を残しではなく、今回のプランに活かしていくことが1点目です。

2つ目ですが、「5」の評価を付けている項目は「目標以上に進んでいる」ということですが、進んでいるから良いと足踏みをしてしまうと周りに抜かされてしまう結果となります。したがって、次の計画の目標を定めた際に、今達成していることを維持する視点も非常に大事になります。「5」なので終わりましたということではなく、次期プランの中で抜けているようなことがあれば、継続して進めていくことが力になるという観点で考えていただければと思います。

3つ目ですが、井上（光）委員からもありましたように、すべてのものにインプットとアウトプットが

あります。観光の場合は施設を作ることになるとその施設のためだけにお金を投じたわけではなく、それが10億円かかったものであっても、観光のためだけにはなりません。しかし、それによってどんなアウトプットが出てきたのか、それもなかなか計算がしづらい分野でもあります。道路の計画を例にすると、B/Cのようにコストに対してどのくらいのベネフィットが生まれたかを道路は必ず計算します。それによって、一定の数値が出ていれば、投資に対してベネフィットの方が大きいという評価がされます。今回もそういったことをすべて行うということではなく、インプットに対してアウトプットが何なのかを絶えず意識するというのを井上（光）委員より示唆いただいたところであります。

今回のプランでは目標値（KPI）を記載するわけですが、その際に安易に観光客が増えたから良いというわけではなく、その観光客がどのくらい消費しているのか、どのくらい滞在しているのか等も含めて目標値を定め、そのために何をしなければならないのか、インプットとアウトプットをしながら評価をしていくことが重要かと思えます。

（4）審議事項

府中市観光振興プラン（令和4年度～令和11年度）1章～3章について

【大津会長】

次に、次第4、審議事項に移ります。（1）府中市観光振興プラン（令和4年度～令和11年度）1章～3章について、事務局から説明してください。

※別紙資料4-3、4-4参照

【大津会長】

只今、事務局より「府中市観光振興プラン1章～3章（案）」について説明がございました。今までの協議会やワーキンググループで出た意見や、調査結果をもとに、プランの概要、観光の現状と課題についてまとめたものとなっております。今回は事前に送付しておりましたので、いろいろとお気づきの点もあるかと思えます。細かい点でも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。

【石川委員】

1ページ目と2ページ目のことになってと思いますが、「観光を取り巻く環境はこの10年間で大きく変化している」こと、また位置づけとして「新しい視点を加え」とありますが、旧プランで進捗としてまだ行っていないということや、途中であるといったようなもの、あるいは旧プランでこれはもう無理でしょうというもの、今後の環境に適していないというもの等あるかと思えますが、加えるものはあっても、なくすものはあるのかどうかその辺の考え方をお聞かせください。

【事務局】

ご指摘ありがとうございます。今後の議論にもつながってきますが、かなり多くの取組をされている中で、何を強みとして取り組んでいくのか、一定程度の選択と集中は必要と考えております。この重点施策の議論につきましては、今までの取組で継続して取り組まれるものもあると思えますし、新プランとしての要素を加えた上で新たな重点施策を検討していくことも考えられます。

本日の議論や今後の各事業者含めたワーキンググループでの個別施策の議論は深めてまいりたいと思

います。

【深澤委員】

調査結果を見ると競馬場への来訪者が多く、前回の協議会でも20代が多いという説明がありましたが、20代は競馬場に来ているのではないかと私は思いました。この調査含め、目指すべきところはもう見えているのではないかと感じており、要するに伸びているところはさらに伸ばす、伸びていないところは、今後どうやって伸ばすのかというメリハリをしっかりと付けた方が良いと思います。

くらやみ祭も前回お話がありましたように、一般の人を祭に参加できないかというような話もあり、私もそう思いますが、ただ地域のステータスがやはりあるとも思います。なかなか入り込めない部分もあり、その辺をどうやってクリアしていくのかということもあると思います。そこにメスを入れていかないと現状のままであります。

伸びているところを伸ばすという点で、競馬場に行く人たちの導線もポイントになると思います。府中駅を使う方よりも府中本町駅や府中競馬正門前駅を使う方が多く、府中を経由しない課題があります。終わっても府中を経由している人は少ないのではないかと思います。そういった人の導線がどうもマッチしていないかと思います。競馬場への来訪者が多いのであれば、そこを活用し、伸ばすにはどうするのかを考えなくてはいけないと思います。

府中は国府があった町であるので、それは他にはないものであります。それをどう来訪者の増加につなげていくか考えなくてはいけないと思います。今観光ボランティアを行っていますが、訪れるお客様はだいたいリタイアした60~70代がほとんどです。また、学校から頼まれて、小学生や中学生の観光案内をしますが、そういった生徒は地元の小学校・中学校の生徒であります。興味がある子はメモを取ったりもしているので、将来的には自分が生まれた地域の歴史を知りたいのだと思います。こういった取組も重要かと思っています。

【得居委員】

伸びているものを伸ばしていくことや、今までの取組の中で厳しいものは見直しが必要ではないか等のお話がありました。また人流というお話もあり、最近では人流はネガティブな話になりがちですが、ここでは人流をポジティブに捉えて話ができればと思います。先程競馬場の話があり、大きなレースがある時は多くの人の流れが起こる形になると思います。企業のご事情等もあるかと思いますが、例えば鉄道会社の方も委員としていらっしゃいますが、人流の減少は競馬だけで総括すると府中本町や東府中から真っすぐに行ってしまうような流れが多いのかという点は今まではどのような状況だったのか気になります。委員の皆さんのデータベース等も今後参考にできるのではないかと思います。また、府中のお祭りの時はどの駅が栄えているか、流入が多いのか等、肌で感じていることがあれば参考にできればと思います。

【大津会長】

私も府中駅のそばに住んでおります。今コロナ禍で事情は違いますが、今まで競馬開催の日では本当に多くの人流れがありました。その方々がどこに行ってしまうのかわかりませんが、今は実際にGIレースの開催でもそういった人流れが全然見られなくなってしまったのが、不思議に感じております。皆さん競馬場に来てその後どこに行っているのかを疑問に感じておりますが、その辺含めまして長尾委

員いかがでしょうか。

【長尾委員】

府中本町駅は競馬開催日は臨時入口が裏にありまして、今使っている改札よりも広いところがあり、そこを開いています。ここ 1 年はその改札口は開いていない状況です。当時のメインレースである天皇賞（春）とジャパンカップ（秋）では 10 万人以上のお客様に利用いただいています。16 時～17 時頃をピークにかなりの人流があり、対応をしています。その後電車に乗ってどこに行かれるかは把握できていない状況です。

【林委員】

私も現場にいるわけではないので、状況を掴みきれておりませんが、今、競馬場は入場を制限しているので、競馬場に行く方は限られている状況かと思います。京王電鉄は競馬場の最寄り駅なので、レース開催時は臨時列車を運行して対応していますが、現在それは行っていない状況です。府中駅に歩く方も少なからずいるとは思いますが、基本的には競馬場の駅から帰るお客様はそのまま新宿方面に抜けていくお客様が多いのだらうと思います。やはり大きな駅で臨時列車も出しているので、調布や新宿に出られる方、府中本町駅に行く方等々、その後の行動は把握できておりませんが、歩いて府中駅に行く方が多いようには感じておりません。

【得居委員】

大きなレースを開催している JRA さんとしては、今制限はしているものの、今の感触としてはいかがでしょうか。

【都留委員】

現在の状況を申し上げますと、毎日約 4,400 名のお客様が入場されております。東京都知事の指示で上限 5,000 人までとなっておりますので、予約で事前購入した方に限って、入場ができるようになっております。これはあくまでイレギュラーな対応ですので、参考までの共有となります。

競馬場の入場人員ですが、正確な人数は今ありませんが、おそらくピークは平成 6、7 年あたりかと思います。その頃は競馬に関する公害等、迷惑なことも多かったと思います。人が集まればそれに伴ってゴミの問題、馬券投げ捨て、吸い殻の問題等、地域に迷惑がかかっておりました。それで今のような形で府中本町駅、府中競馬正門前駅からの直通的通路を作ってきたという歴史があります。もともと東府中駅までしかなかったものが、京王線に延伸していただいたときには、東府中駅の商店街の方々からは当時昭和 30 年代の初めの頃は反対があったと聞いておりますが、多くのお客様が来て、そこで消費行動があって、お金が落ちる反面、その人たちがもたらす迷惑行為等のバランスからどちらかという迷惑の方を防ぐ方法を今まで取ってきたのではないかと思います。

一方で観光振興という視点に立つと、やはり地元への消費活動につながっていないということもあるかと思います。全国に競馬場 10 箇所ありますが、ほぼすべての競馬場で地元で落ちる消費行動と迷惑行為のバランスから直通的通路を作り、地元で迷惑のかからないようにするといった方向にウエイトがかかっているというのが実態かと思います。観光振興によって入場を増やすということもあるかと思いますが、競馬場としては地元との融和を図る施策も一方で行っていかなくてはいけないと思います。

入場人員は平成6、7年がピークでありましたが、あまりにも人が多く来すぎて、安全面の問題もありまして、実際に私どもの事業所の中で競馬場ではありませんが、場外発売所で将棋倒しの事故が起きたこともあります。そういったところから実際に現場に足を運ばれるお客様を減らすというのが、まさに観光とは逆行するかもしれませんが、そういったことが社会的に命題として突き付けられた時代もありまして、好きな方はご存じかと思いますが、携帯電話で買えるようなシステムを割と世間に先駆けて行った結果、平成6、7年は現場で購入する方が9割、今はコロナがなくても、現場購入が3割、携帯が7割、コロナで現場1割、携帯が9割という形となっています。お客様の来場数を減らすという施策は、社会的に突き付けられた命題に応えた結果、行き過ぎたところもあり、行き過ぎると新規参加者が減ってしまい、産業も衰退してしまいます。そういったこともあり最近ではテレビCM等でも若者にリーチできるようなプロモーションを心掛けています。ただ、効果はまだよくわからないところです。若者を取り込む施策を取り組んでいきたいが、一方でカジノから来るギャンブル依存症という問題もあり、若者向け施策には非常に神経を使っている状況であります。

したがって実来場者数は20年前と比較すると大きく減少しており、駅から直通的通路も作っているのに、なかなか町に出かける方がいないという肌感覚はおそらく正しいのではないかと思います。

【大津会長】

競馬場に来場する若い方たちは馬券を買う、携帯電話で投票する方、様々いるとのことでしたが、せっかくこの府中の町に目的は何であれ来ていただく方たちに、その目的だけではなくて、+αのものを見だしていただきたいと思います。例えば、携帯投票ではなく、実際に足を運んでいただき馬をみてもらい、それから何かもう一つあると若い人だけではなく、いろんな年代の方にもお越しいただけるのではないかと思います。そういったところが観光につながってくるのではないかと思います。

【深澤委員】

あれだけの人数を集められるのは競馬場以外にないと思いますので、有効活用したほうが良いと思います。また、昔の競馬のイメージと最近の若い人たちが行う競馬のイメージはだいぶ変わってきているのではないかと思います。昔よりは明るく感じています。そういった面からも若い人たちを誘客するためにうまく活用したほうがよいのではないかと。私もあのあたりを案内しますが、競馬場から府中駅に行く導線が住宅街を通らなくてはなりません。その道のことも知られてないと思います。そういう人数を集客するのであれば、導線をしっかりと考えるべきだと思います。これだけの人数をただ見過ごしているのは非常にもったいないと思います。

したがって伸びるものを伸ばすためにはどうするかだと思います。また、武蔵国府等の歴史をもっとPRすべきだと思います。他のところにはない歴史、ストーリーがあったことをしっかりと位置づけする必要もあると思います。ただ、残念ながら案内をしていて、府中宿の宿場の面影があまりないのが現状です。小中学生に説明するにも、話や絵を見せて終わってしまいます。時代とともに致し方ない部分かと思いますが、また、各場所の観光案内体制がきれいに整備されていないと思います。

【得居委員】

考えてみるとギャンブルで負けてしまうとお金がないので、そのまま帰るのかと思いました。例えば、

映画とかですと、商業施設等とタイアップで半券を持っていると何かお楽しみがあるということも最近行われていると思いますが、競馬場で負けた方も馬券を持っていくと商店とかで「残念だったね。お疲れさん」と一杯飲めるような取組はできないかと思いました。

【筒井委員】

競馬、お祭り、イベントなどの毎日あることではないのですが、府中で緑の自然会議という取組をしております。各地で残っている自然を調査して、自然を取り戻そうと取組をしております。歴史の話もありましたが、石器がたくさん出ていることもありますし、郷土の森博物館に行くと府中全体の様々な名所がわかるというのがはっきりと出てきます。郷土の森博物館がハブ機能を果たしているのも、そこをもっとPRして、郷土の森博物館に行くと、各地に誘導してくれるような案内をもっと強化すると良いのではないかと思います。ジオラマもありますので、見た後に現実に見に行く等のことも考えられますので、その辺の連携ができるとう良いと思います。

よさこい祭にしても年に一度の話なので、定番だけでなく、府中を取り巻く周りの資源にもうまく誘客できれば、お金を落としてもらえ連携の仕方も商店街として考えられるのではないかと思います。

【井上（光）委員】

プランの背景・目的のところ、なぜ現行プランの振り返りシートがないのか素朴な疑問があります。できたこと、できなかったこと、これからも続けるべきこと、縮小すること等、そういったところの結果と時代的な背景等を総合的に勘案して、統括が一つあって、今回のプランにつなげるべきではないかと思ひます。そうするとこういったところに課題感を持って取り組んでいくのだと皆さんの理解も得られるのではないかと思ひます。

【事務局】

ご指摘の通りかと思ひます。現在 3 ページ目に現行プランの実施事項を記載しているものの、現行プランにおいては、KPI が設定されておらず、それぞれの取組に対して評価が難しい状況でございました。しかしながら、次期プランに入るにあたっては、現行プランの取り組みの評価は重要となりますので、定性的な評価にはなってしまいますが、再度事務局で確認をした上で次期プランの背景・目的のところを編集し、皆様のご理解を得られるように進めていきたいと思ひます。

【大下副会長】

今、井上（光）委員よりご指摘いただいた通りかと思ひます。ここで各委員の皆さんには原点に立ち戻って考えていただきたいことが、1 ページ、2 ページのところとなります。「何のために作っている計画なのか」をもう一度委員全員で共有しておく必要があります。現在、「①観光・交流による地域の活性化、②市民が誇れるまちづくり、③持続可能なまちづくりを実現することを目的として策定するものです」と記載があります。言葉は最終的に変わっていくものとはいえ、今の現行プランではこういったことを目的としていました、今回のプランはそれをステップアップするのか、継続するのか、ステップアップするならどういった形で変えていくのか等の姿がこの目的の中に入ってくると思ひます。前回の委員会のところでも説明しましたが、観光振興プランは法的に定められているプランではなく、独自に作って

るものですので、府中市の観光に携わっている皆さんと共に、市民の方々にもっとも受入れやすい観光の姿とは何だろうか、そのためにプランを今改定している、あるいは新しく2次という形で作り上げているということを十分に、毎回のように議論しても良いと思います。

各地の例を申し上げますと、観光資源の磨き上げを初めて行うところに多いですが、この地域にはどんな観光があるのだろうかと資源を洗い出すことを行っているところもありますし、観光体験や旅行商品みたいなものを作り上げるプランということもあります。あるいはプロモーションとして地域の名前を広げていくために、特産品等も併せて売するために観光という手段を使おうということもあります。また、それ以外のところだと、島の子どもたちが島のことを理解するために観光を一つテーマにして郷土愛拡大のために観光振興プランを作っているケースもあります。さらにはすでにあるプラットフォーム的な組織も含めて、観光事業を推進していくために、推進力を強めるために、プランを作りましょうというものもありますし、最近では公園や道路、河川等のインフラ施設をすべて活用できるように、中核的な組織が必要になってくるので、すでにあるストック、観光資源を基に、稼ぐためにプランを作るケースも最近出始めております。

したがって、様々なところでプランの成果は出てきますので、府中として軸足をどこに置くのかをしっかりと定めて、軸足が動かないように、次期プランは定める必要があると思います。今ここで議論しましょうということではなく、計画を作りながらも軸足はここにあるということを確認しつつ取り組んでいくことがこの検討協議会では必要ではないかと思います。それが最終的に目的・目標につながっていきます。

また、今お話ししたことが位置づけにつながっていきますが、現在使われているのが2つとなります。「日常を含め市民がホスト・ゲストとして楽しめるものを観光と位置付ける（シティプロモーションの視点）」とありますが、シティプロモーションが並列となってますが、これは別のものではないかということと、「産業間連携、世代間連携、地域間連携」と連携していきましょうとありますが、その前に自分たちのところでしっかりとコアになるところが、何を位置付けて、軸足をしっかりと持っていないといけないのがさらに大事になります。そして、それ以上にこれからのポイントで抜けている視点が「持続性」というポイントです。持続可能性はこれからの東京都の観光もかなり強く打ち出しております。さらにSDGsの観点も重要です。その時に先程の連携で3つ記載があるように、持続性にも今回3つ入れてはどうかと思います。1つ目、仲間づくりです。観光協会が頑張ろうとしても人材的には限界があります。どのようなプラットフォームを作り上げるのかと考えた時に、人材をどのように獲得していくのか。そこには場合によっては子供のまちづくり教育等も含めて、これからの10年、15年先の仲間を引っ張り込むようなことも含めて、仲間づくりを行きましょう。2つ目は継続的なプロモーションを行うことです。3つ目は経営力に基づく観光を行っていくことです。マーケティングの視点や経営の基本戦略である「ヒト・モノ・カネ・情報・危機管理」みたいなものを観光の分野の中にも盛り込んでいくことが重要です。府中市は持続性という大きな括りの中で取り組んでますということが示せると、東京都内でも観光振興プランの中でここまで謳っているものはなかなか見当たりませんので、新しいものとして話題性を生むようなものになっていくと思います。まさしくこのプラットフォームで様々な方が来ている中で、そういったものの発想が生まれてきました、観光に経営力を与えるのだというようなことを今回のプランの中に盛り込めれば、これはすごく力になるのではないかと思います。観光協会をさらに推進力を強めていくものにもなっていきますし、地域全体でどう稼いでいくのかというようなことにもつながってい

く視点ではないかと思います。

基本方針・施策の方向性について

【大津会長】

次に、次第 4、審議事項の基本方針・施策の方向性について、事務局から説明してください。

※別紙資料 4-5 参照

【大津会長】

只今、事務局より「基本方針・施策の方向性」について、説明がございました。ここまで整理してきた背景、現状、課題を踏まえ、本市として重点的に進めるべき施策は何か、その方向性について、ご意見を伺いたいと思います。その前に、大下副会長より先にポイントをお話いただければと思います。

【大下副会長】

今事務局より 4 つの観点を新視点として加えたいという話がありました。おそらく事務局で考えられていることは積み上げ方式で持ってこられていると思います。今までのデータ、協議会での議論、ワーキンググループの議論を踏まえて、積み上げたところ、この 4 つの観点が現行プランにはなかったので加えたいという話かと思えます。その中で足りない視点があれば、意見がほしいとのことかと思えます。一方で方針を定める際に、ずっと積み上げてばかりいてもいけないとも思えます。

積み上げ方式とトップダウン的に最後の目的を定め、そこから降ろしていったときに違う面はないだろうか、漏れている面はないだろうかといった計画のプロセスの作り方があります。

先程申し上げた通り、今回の計画は何のために作っているのか、仮にこれから府中は観光で稼ぐために作っていく計画とした場合、またこれは違う組み方になってくると思えます。稼ぐためのものを洗い出していく、それに付加価値をどう付けるかみたいな観点になってくると思えます。先程の計画の目的・位置づけとも大きくリンクしてくる、ものによって中身が変わってくることをまず最初に申し上げておきたいと思えます。確かに正解はありません。これを次回以降形を組まれる前に、この部分が足りない等を本日先に出しておき、我々の魂を伝える必要があると思えます。

要望を 3 つお伝えします。1 つ目。子供の観光まちづくり教育も含めて人づくりの観点も入れてほしいと思えます。2 つ目。観光危機管理の考え方をに入れてほしいと思えます。観光客を迎える以上、もし地震等が起きたときにどう外からきたお客様を守るのか、その観点をぜひ入れておいてほしいと思えます。3 つ目は品質管理の観点です。観光はやりっぱなしではなく、それをどのようなデータをもって、ある一定の満足度を来た人たちに与えているのか、それは調査も含めて日常的にどのようなことが可能なのか、それをぜひ今後の展開の中の視点の項目として加えていただきたいと思えます。どう編集されるかは専門家の知見によるところが大きいと思えますが、こういう観点だけは入れておいてほしいと思えます。

【廣瀬委員】

私も人づくりのところは大事なポイントだと思っておりまして、1 章～3 章のところにもその観点を盛り込んでいただければと思います。基本理念のところ、「歴史・文化、自然、食」と記載がありますが、人の部分も入れていただきたいと思えます。(3) のところで「人」と「施設」の両面から“おもてなしの心”を伝える受入態勢づくりという記載もありますが、例えばこれまでのプランの振り返りの際に記

載のあった府中大使の方の活動や施設「183 FUCHU FAN ZONE」でのおもてなしのところは継続的に実施してほしいこととして落とし込んでいただければと思います。

もう一点が基本理念に「食」と記載がありますが、現在1章～3章で食について触れられていないので、その部分に関して少し触れていただくのが良いのかなと思っております。産業のところで農業・工業・商業と記載がありますが、農業と商業の連携のところ、先程も連携という言葉がありましたが、飲食がやはり地域の野菜等、地場産を使っている取組もあり、魅力の一つでもありますし、アンケートでもグルメのところは小売りよりも多く回答がありましたので、産業のところに小売りの数値がありますが、飲食に対しても触れていただくと良いのかなと思います。

【井上（博）委員】

この資料ですとインバウンドの話は全く出ていないが、20 ページにあるデータも夜に来て、ドン・キホーテ等に行って、翌日の朝早く出ていってしまう形だと思います。インバウンドに対する日中の滞留時間を長くするためにどうするか、魅力をどう伝えるかが抜けている視点かと思います。

また、都市型の観光という視点がよく出てくるのですが、府中をどう見ているかという話になった際に、都会の田舎であって、都市ではないと思います。都市型というと日本橋あたりは完全に観光の百貨店であって、その辺と一緒にしてしまうと思います。そして、銀座の三越あたりだとインバウンドメインになっていますので、その辺との整合性を取ってもらいたいと思います。

【筒井委員】

先程震災対策等のお話もありましたが、これから長期に計画が進むにあたって、東日本大震災のときもそうでしたが、帰宅困難の方がたくさん出たことや、あとはエレベーターの中にだいたい閉じ込められてしまったりとか、そういった対策も含めておくことで、安心・安全なまち府中ということで、売りになるかと思います。

【宇田委員】

新しい視点ということで、「日常を含め市民がホスト・ゲストとして楽しめるものを観光と位置付ける」ということですが、ふと疑問に思いましたのが、府中市民はこういったことに興味を持っているのか、誇りを持っているのか、という議論が抜けてしまっているのかなと思いました。市民に対する情報発信、もともと住んでいる方は大好きだし、よく知っていると思いますが、他市等からの流入者も多いと思いますので、府中市民の中でどれだけの方がこれだけの知識を持っているのか、もしくは後から入ってきた方は知らないし興味もないし、ただ働きに行き、家に帰るといってそれだけだと思います。まず、自分たちが府中市の観光資源に誇りを持てる、そういった土壌がなければ、ホストになり得ないと思います。市民と連携してという記載もありますが、ごく一部の人でしかなく、そういうおもてなしを来た人は感じないのではないかと思います。根本的な話ですが、市民に対する情報発信・教育を考えたらどうかと思います。

大下副会長がおっしゃっていた品質管理・危機管理は企業では当たり前に行わなければいけないことだと思いますので、これから新しい会社を立ち上げるという発想で行った場合に、どうすれば多く滞りしてもらえるか、どうすればお金を落としてもらえるか等、利益という観点が入ってきた際にみんな真

剣に議論してよいものができるのだと思います。

例えば競馬場で市内で使えるクーポンを配布したことが過去どこかの事例であったと思いますが、体験と飲食、宿泊まで含めれば滞在時間は増えますし、お金も落ちます。そして商業関係の皆さんにもお金が落ちるし、まちに賑わいも出る、そういったごく当たり前の発想で行っていけばよいのかなと思います。では先程から話題になっている推進主体はどこなのかという話ですが、府中市が主体だと利益という観点は入りませんので、市にはこういった場を作ってもらい、そこにこれだけの企業が集まれば、利益という観点で真剣な議論ができると思います。

KPI という話がありましたが、旅館組合に対してそういった資料の請求等が必要であれば、私のホテルでもアンケートを取っておりますので、もしデータが取りたいということであれば、旅館組合と話して、すべての宿泊施設に共通のアンケートを入れるなどして生のデータが取る等、その辺もっと突っ込んで協力できればと思います。

【横山委員】

コロナウイルスの影響でくらやみ祭が中止となっておりますが、この府中市はくらやみ祭が中心となり、様々なことが動いているということが住んでいるとよくわかります。歴史や観光のことにしてもくらやみ祭が起点となっております。先程観光協会の宇田委員がおっしゃったように、府中市をどれだけ知っていて、ホストになれるかという点では私の知っている方でも、引っ越してきて10年、20年住んでいる方でもお祭りのことなど全然関心がない方が大勢います。昔から住んでいる方はわくわくしたり、実際に見に行ったりとしますが、なかなか伝わっていないと思います。広報ふちゅうでたくさん発信もしていると思いますが、知っている前提で発信がなされている感じもしております。府中市は国立、調布、多摩川の方まで隔々ありますが、私の住んでいるあたりですと、調布や吉祥寺に行っています。調布にバスが出ておりますし、電車も便利です。

また、先程商店のお話もありましたが、私の周りの主婦はポイントを貯めています。何日に訪れるとポイント〇倍などとても魅力があり、人の流れもできます。こういったことと観光を連動させることで市民の方や市外の方にもっと府中の観光や魅力を知ってもらえるのではないかと思います。

【大下副会長】

熱心なご議論いただき、ありがとうございます。総括させていただきます。3点ございます。

1点目、井上（光）委員からもご指摘をいただきましたが、1章のところは、これまでの取組の総括を踏まえた上で、しっかりと目的、位置づけを事務局で検討いただき、提示していただきたいと思います。加えて3章にターゲット等が課題という形で記載がありますが、多くの場合課題は現状があって、将来の目標があって初めて課題が出てくると思います。現状の流れでは、課題があり、目標という順番になっておりますので、そのあたりはもう一度整理をいただきたいと思います。次回以降のメインの話になると思いますので、今までのノウハウや経験を基にお示しいただきたいと思います。

2点目、本日非常に面白い視点として、人流という視点がありました。悪い意味での人流の話もありましたが、良い意味での人流は観光が求めているものです。もともと観光を考えると、人は移動するものがあります。それを規制することはストレスを抱えることになり、今回立証されたと思います。さらに観光はその一歩先に行く、「人は遊びを求めるものである」と人類学者が唱えています。つまり観光というも

のは、絶対にならず、これから規制されればされるほど、観光に行きたくてみんなうずうずすると思います。2023年、2024年までかかると言われておりますが、計画期間内には必ず戻ってくるということを捉えた上で、人流をこれからどのように考えていくのか皆さんと次回以降議論ができればと思います。

3点目、今後様々なポイントが出てくると思います。観光を広めようと思ったときに、まず経済的意義ありきの話でスタートすることが一番理解を得やすいと思います。さらにそのようなことだけだと観光関連産業のためだけの観光ではないかとなりかねないので、それをきっかけとして、次は社会的意義をどう伝えていくのか、つまりゲスト・ホストはまさしくそのことであります。そういった形で外から来た方々と交流していくとさらに輪が広がっていきます。そして、そういった方々が訪れるようになると、3つ目の文化的意義、今まで気が付かなかった資源や資源にさらに付加価値が付いたり、観光の魅力がさらに高まっていきます。そこまでいくと収益も上がっていきますので、4つ目の経営的意義で先程の「ヒト・カネ・モノ・情報・危機管理」というようなものを基に経営力を束ねて、次の経済的意義にもっていくサークルを上手く回していく、これをぜひパート、パートで使っていく。例えば府中の歴史環境を生み出すにはどうしたらよいか、といったとき経済・社会・文化・経営を回しましょう、あるいは競馬場についても経済的意義、社会的意義、文化的意義、経営的意義を持ってくる、もともと競馬場は社交場であったので、そういったことも出しながら持っていくと、さらに理解者が増えていくだろうと思います。こういったことを手法として、皆さんと考えていければと思います。

【大津会長】

ありがとうございました。本日、意見聴取させていただいた内容を私と大下副会長、事務局で預らせていただき、次回以降は観光振興プランの4章以降についてご意見をいただきたいと思います。

(5) その他

【事務局】

次回開催日：7月16日（金）午前10時から

場所：北庁舎3階第1・2会議室